

詩展2012

Shallow Blue  
in Orange



komasen333

ようこそ、詩の個展へ。

6年前から詩のブログを始め  
これまでに1400篇以上の詩を書いてきました。

今回、詩やブログをもっと多くの方に知ってもらおうと  
初めてこの詩展を開催することにしました。

コンクール入選作6篇。  
ブログからの作品4篇。  
詩展のために用意した新作3篇。

計13篇の詩をごゆっくりとお楽しみください。

この詩展をきっかけに  
ブログの方も読んでいただければ幸いです。

komasen333

詩のブログ

「 橙に包まれた浅い青 」

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333>

## 真っ黒な整列

---

指先に残る感触

現実感以上の幻想感

痺れるような弛緩が止まない直後

人差し指と親指が反射した

いや、決断した

正義という大義の下で

防衛という前提の下で          なされた

論理的な思考とも思えぬ一連の帰結

感情的な思考とも思えぬ一連の帰結

理性的な思考とも思えぬ一連の帰結

人間的な思考とも思えぬ一連の帰結

刹那      突っ伏した背中

刹那      湧き上がった安堵

刹那      淀んだ背景色

君がいなきゃ

---

君がいなきゃ

醤油さしがどこにあるかわからない

君がいなきゃ

大好物の中トロもさほどおいしくない

君がいなきゃ

窓の花もそんなに綺麗と思えない

君がいなきゃ

チャンネルの取り合いもできない

君がいなきゃ

トイレ掃除のじゃんけんもできない

君がいなきゃ

「風呂、先入る？」って聞くこともできない

別れて

はじめて　ようやく　気づいた

君がいなきゃ

日々のすべては　平凡なまま

笑っちゃうよ

笑っちゃっていいよ

どうやら

僕という僕らしさは

僕のものではなく 君のもの だったみたい

「キレイ」  
そう指差す先にあるものを  
同じように  
キレイと思えなくなって久しい

自分で精一杯  
半径1メートルの事さえボンヤリ  
そんな時にも  
作為のない共感で  
「ほんとキレイだね」と  
相槌を打っていた自分がちょっと懐かしい

帰りの地下鉄で  
僕らの前に座っていた五十過ぎの男性  
両手に荷物をもったおばあさんが来るなり  
さっと立ち上がって  
無言の右手で席に座るよう促し  
隣の車両へ歩いていった

あんな風に  
器用に スマートに  
これから僕は  
キミのために 誰かのために  
何かを 真っ直ぐにしてあげられるのかな  
「してあげる」  
という上から目線を拭い去れるのかな

何1つ不自由なんてないのに  
何1つ不自由なんてないからこそ

些細なことで苛立ってばかり

そんな自分にタメ息ばかり

それでもキミは

この心の奥を知って知らずか

狐の嫁入りのような声で

「また、いっしょに行こうね」と

この手をそっと握ってくれた

澄み切った青を見上げる午前 可能性の渦が西の彼方によぎる  
単調な予告を告げる明日が東の彼方に漂う

変化の乏しい迷路の中で残り時間を地図をなくして消化  
秋の風の中 飛ぶトンボに優しく語る  
どこに行きたいのかわからない もう明日にときめかない  
どうすればいいのかわからない 昨日の積み重ねを繰り返している

意味があるのかないのか2択ならば「ある」と答えるしかない日常  
「ない」と答える権利はあると言われるが言わずもがなと暗黙の了解を強要される

憧れは明確なのに方法論を掴みにいく勇気を持たずに過ごしている  
遅すぎることはないと言い聞かせたところで夢は夢物語のまま  
変えれない過去に捕らわれたまま

渋り出される未来 欠片に託された無数の光  
針に触れようとする仕草 それは中枢を握るようにも見える

どんなに遠く投げられても どんなに深く掠れても 美しさは永遠に

時よ流れてしまえ 願い続けた9月の2限  
屋上に駆け上り 仰向けで抱きしめた秋空  
浮遊する 手を広げ 滑空するかのよう

最果てがあるのなら今すぐ飛んでいきたい  
辿り着ける確証があるのなら歩いてでもいきたい  
始まりも終わりもない世界に



## 知らずに済んだフクシマ

---

ミリシーベルト、ミリシーベルト、ミリシ・・・  
一生、知るはずのなかった言葉  
ベクレル、ベクレル、ベクレル、ベクレル・・・  
一生、知らずに済んだはずの言葉  
一大キャンペーンのように  
バラ撒かれた  
バラ撒かれた  
津々浦々にバラ撒かれた

無知は黙認に等しく  
無関心と何ら変わらないこと  
痛切に実感した  
福島がフクシマになってしまってようやく

数値に求められ  
毒気を抜かれたリスクとコスト  
一つの天秤に乗せられ  
維持を前提とし  
見え透いた古典原能を誇大踏襲

「今、福島原発はどうなってるの？」  
夕方のニュースを見ながら  
上の空で答えながら、ふと気づく  
「よくわからない・・・」  
いつの間にか  
あんなに溢れていた関心が薄れている  
あれから  
まだ5ヶ月しか経っていない蝉時雨



## 二大政党制

---

いっぺん委ねてみましょう  
ダメもとでいってみましょう

少しは褒めてあげましょう  
たまにはいいでしょう

褒めれば伸びるか縮む  
どちらにしても何らかの反応は測定されるでしょう

勇気を与えてやりましょう  
調子に乗っているなら  
いっぺん鼻をへし折りましょう  
最終的にはどちらのためにもなるでしょう

いっぺんそっぽ向きましょう  
積極的に示してみましょう

少しは冷たくしてあげましょう  
たまにはいいでしょう

冷たくすれば伸びるか縮む  
どちらにしても何らかの刺激は観測されるでしょう

休息を与えてやりましょう  
意気込みがあるなら  
いっぺん鼻を高くしてやりましょう  
最終的にはどちらのためにもなるでしょう

いちいちやってあげましょう  
そうしないと気づかないでしょう

そうしないと気づけないでしょう  
そうしないと落ち込んだままでしょう  
そうしないとあぐらをかいたままでしょう

めんどくさいものでしょう  
世話がやけるものでしょう  
まあ そんなものでしょう

「大丈夫ですか？」と聞かれ  
「大丈夫ですよ」と答えるばかり

勢いで  
喜怒哀楽を漏らして  
記憶の海原に投げ出されるくらいなら  
1つも残さず  
グッと呑み込み  
しまっておいた方がまだいい

何もかも 誰も彼も  
つけられる  
はずだった無数の句読点を置き去りにして・・・

いっそ  
あの日に物語という物語が  
おわってくれていたら  
楽になれたのかな・・・

不謹慎？  
そうかもね。  
でもね。  
そう、思わずにはいられないんだよ・・・

前を見つめる眼差しに  
上を見据える歩幅に  
ついていけるほどの折り合いを

まだ

つけられそうにない (ゴメンナサイ・・・・・・・・)

声なき声がする

どうしても、声にならない声が聴こえる

あえて、声にされない声が聴こえる

五感を通して 響き渡る

その1つ1つを静かに受けとめる

その日が来るまで

その日を信じて

世界は昨日もこんなに泣いていました

1人 リビングでコーヒーをすすりながら目を通す

相変わらずこんなにもひどいままで

良くも悪くも映像は気軽に教えてくれる

1人 リビングで蓄えていく

話のタネにでもなればと思いながら

世界は昨日も泣いていた

そして今日もまた泣くのだろう

1人 リビングで物思う

世界の中でどう映ってるのだろう

あんなにも泣いている場所があれば

こんなにも笑っている場所がある

あの場所から見れば

僕は笑っている場所にいるのだろう

でも僕自身は

その中間のような場所にいると感じている

だから時々  
笑っている場所よりも

ずっと泣いている場所に  
憧れに近いものを感じる



## 夜明けの食卓

---

きらびやかな回路 敷設する真夜中過ぎ  
2LDK 奥深く 冷たい重低音

書き表せない感情を言葉にする矛盾

月明かりを蹴散らすかのようにライトアップ  
暗闇知らず 闇夜知らず

哲学とは何なのかから始まる自己実現

寝転がるホームレス 悪気はないのに隅へ隅へ  
ありふれた朝が摩天楼に霞む

喰い散らかす残飯  
遅ればせながら収集車  
あふれ始めるスクランブル

あの頃が今も続いていたなら 仮定は現実よりも鮮明

飛び出した黄色い太陽 広がる白いキャンバス  
手馴れた手つきで揺らし とれかけのまぶた 精一杯くっつけて

傷つけてしまった面影 取り戻せはしないけれど  
今朝も眠気覚ましで 小さくとも重い太陽をいただきます



しわ寄せは民に向かう  
大誤算は最下層が被る  
根本的な歪みが  
少しでも露わになればあまりにも脆い  
「文明」とはもはや呼べぬ文明

責任はなすりつけ合いの道具  
いつからかそれが当たり前となり  
原因は入り組みすぎて  
解明は将来世代にまで持ち越し

世界平和を願いつつ  
自国さえよければ闊歩  
余裕がある時は 自然と上から施し目線  
余裕がなくなれば 堂々と「構ってられるか！」宣言

地球は回る  
あきらめることなく

地球は回る  
期待することもなく

行き場を失くした民は  
怒りを持って余した民は  
大きな 大きな 広場へと向かう

この世界のおかしさを分かち合うため  
この世界の貧しさを改善するため

利口ぶった

政治と経済の肩を叩くんだ

「 もっとマシな方法があるはずだろ? 」と

何才からでも研修中

---

胸に【研修中】の札

「いらっしゃいませ」と、深々としたお辞儀

ゆっくりと

「一点、二点・・・」

声に出しながら

ミスのないように丁寧に

傍らには先輩社員

さり気なく袋詰めをサポート

列に並ぶお客のあたたかな眼差しの中で

店内アナウンスは方言全開

「一人暮らしを始めてすぐにアルバイトを始めました」

そう言わんばかりに

何にも染まっていないイントネーション

商品の陳列はテキパキ

商品の質問をされるとドギマギ

迷ったり、焦ったり

泣いたり、笑ったり、行ったり来たり

何才でも研修中

何才からでも研修中

時にハラハラさせる初々しさ

段々と目を見張るほどのなめらかさ

その過程はただただ美しい

過去の

未来の

現在の

自分のような

あなたを見かけるたび

心の中で （ がんばれ！ ） と応援

だからこそ

---

声にならない

だからこそ 叫んでいく

言葉にならない

だからこそ 綴っていく

少し振り返ると

とてもよく似ている

混沌としていたあの時代に

行きつ戻りつしていたあの転換点に

お金があるかないか

夢があるかないか

有名であるかないか

偉いか偉くないか

性別とか年齢とか出身とか経歴とか

一番気にしているのは

その時々自分自身でしかない

声にならないこと 叫んでいく

言葉にならないこと 綴っていく

生きている土壌に構わず

そこから また 何かが・・・

そこから また 誰かが・・・

君の声が 私の言葉が  
私の声が 君の言葉が

この世界の  
その世界の  
希望 と 絶望 を左右してゆく



ずっと  
近づけば近づくほど  
絡まって  
離れれば離れるほど  
解けてゆく  
そう、信じていた

それが突然、真逆へと雪崩れこむ  
近づけば近づくほど  
解けて  
離れれば離れるほど  
絡まってゆく

深い窓を見つめながら  
ネオンの背中を撫で  
懐かしい あたらしい 自分と出逢い  
細い夜を越えながら  
涅槃の吐息を重ね  
知らなかった 知っていた あなたと出逢う

幸せとは何かと  
考えられる幸せに包まれたまま  
この時の代償を  
今日も世界のどこかで  
誰かが 何かが 被っていること  
忘れそうになる

ベールを脱いだ

青白い空をキャンバスに

「恋とは、かくも不思議なものですね」と

わかったような

茶化したような口で幕を引く

嫌味のない笑みを添えて

その場면을

その日々を

今でも、忘れられずにいる

## 詩展2012 Shallow Blue in Orange

本陣ギャラリー 11月7日（水）～12日（月）

黒川ギャラリー 11月14日（水）～19日（月）

---

1. 真っ暗な整列 (第49回 大垣市文芸祭 詩の部 佳作)
  2. 君がいなきや (第47回 岐阜市文芸祭 一般の部 歌詞 入選)
  3. 北東の水族館 (第3回 関市文芸作品展 現代詩 一般の部 佳作)
  4. 青 (初出) <http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/23723091.html>
  5. 知らずに済んだフクシマ (第38回 羽島市文芸祭 現代詩 入選)
  6. 二大政党制 (初出) <http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/28595310.html>
  7. あの日から (名古屋市民文芸祭 第62回 名古屋短詩型文学祭 詩部門 佳作)
  8. 時事 (初出) <http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/31890194.html>
  9. 夜明けの食卓 (初出) <http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/23475088.html>
  10. 民は広場へ
  11. 何才からでも研修中
  12. だからこそ
  13. パラノイア・セッション (第45回 多治見市文芸祭 詩部門 奨励賞)
- 

○2012年 11月7日（水）～12日（月）

【 会場 】 本陣ギャラリー（名古屋市営地下鉄 東山線 本陣駅 改札外）

【 住所 】 〒453-0044 愛知県名古屋市中村区鳥居通2丁目36

【 時間 】 9:00～19:00

【 料金 】 入場無料

---

○**2012年 11月14日（水）～19日（月）**

【 会場 】 黒川ギャラリー（名古屋市営地下鉄 名城線 黒川駅 改札外）

【 住所 】 **462-0046** 愛知県名古屋市北区域見通3丁目13

【 時間 】 **9:00～19:00**

【 料金 】 入場無料

---

詩展**2012**の記録はこちら↓

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/folder/1617224.html?m=l>

概要、案内状の設置情報、メディア情報、展示作品など

詩展**2012**の開催前後の記録をご覧ください。

---

【 告知動画 】

詩展**2012 Shallow Blue in Orange**（1）

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53724422.html>

【 告知動画 】

詩展**2012 Shallow Blue in Orange**（2）

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53729662.html>

【 告知動画 】

詩展**2012 Shallow Blue in Orange**（3）

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53730646.html>

---

詩展**2012** 本陣ギャラリー 写真集（1）

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53753343.html>

詩展**2012** 本陣ギャラリー 写真集 (2)

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53753364.html>

詩展**2012** 本陣ギャラリー 写真集 (3)

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53774467.html>

詩展**2012** 黒川ギャラリー 写真集

<http://blogs.yahoo.co.jp/komasen333/53774482.html>

---

## komasen333の関連リンク

---

【 橙に包まれた浅い青 】

<http://komasen333.blog.jp/>

【 電子書籍 】

<http://p.booklog.jp/users/komasen333>

【 現代詩フォーラム 】

<http://po-m.com/forum/myframe.php?hid=6982>

【 無限な無心な無色なシャイニング・ブライトリー 】

<http://blog.livedoor.jp/sakowha333/>

【 なんちゃって自己啓発の詩想 ～ ポジティブ ポエトリー ポッシブル～ 】

<http://positivepoetrypossible.blog.jp/>

【 Life Love Laugh ～変わる心は恋のせいに 変わらぬ心は愛のおかげに 】

<http://lifelovelaugh.blog.jp/>

【 エンプティ エン エターニティ 】

<http://komasen333.hatenablog.com/>

【 photo photo photo 】

<http://photo3.blog.jp/>

【 禁カフェイン→脱カフェイン→減カフェインに下方修正 】

<http://nocoffee.blog.shinobi.jp/>

【 YouTube 】

<http://www.youtube.com/user/komasen333/videos>

【 SUZURI-オリジナルグッズ 】

<https://suzuri.jp/komasen333/products>

【 レポート・論文 】

[http://www.happycampus.co.jp/docs/983431505701@hc05/?docs\\_num=&m=2&v=&t=&e=&\\_\\_a=list\\_bar](http://www.happycampus.co.jp/docs/983431505701@hc05/?docs_num=&m=2&v=&t=&e=&__a=list_bar)

【 Twitter 】

<https://twitter.com/komasen333>

【 note 】

<https://note.mu/komasen333>

【 VALU 】

<https://valu.is/komasen333>

【 Gridge 】

<https://gridge.com/komasen333>

## 詩展2012 Shallow Blue in Orange

<http://p.booklog.jp/book/61899>

著者 : komasen333

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/komasen333/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/61899>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/61899>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ